

事例7-8

取組名	町会内の人材活用による事業の活性化		
町会名	ことぶきだいひがし 寿台東町会（寿台地区）	町会 データ	・人口／558人 ・世帯数／265世帯 ・高齢化率／44.4% ・町会加入数／212世帯 ・隣組数／24組
取組概要	○ 敬老祝賀会や高齢者クラブのお茶会に際して、特技を持つ町会内の人材に協力を依頼		

背景・課題

- ・ 現在町会には組が24あるが、高齢化が進んだことで、組長ができないという人が増えている。そのため、段階的に組の統合を進め、R8年度には21になる予定。
- ・ 町会単独の行事として実施しているのは、新年祝賀会、敬老会、焼き肉交流会など。
- ・ 焼き肉交流会は、防災訓練の一環として消火栓放水訓練をしたあと、隣の公園で実施している。約40人の参加を得ており、町会内の親睦交流につながっている。

経過・取組内容

- ・ 新年祝賀会と敬老祝賀会は、地区公民館（寿台公民館）で盛大に実施していて、町会の総務部長、会計部長、民生委員が準備進行を担当している。
- ・ 敬老祝賀会は、お酒、料理、アトラクションを用意して会食を行う。75歳以上の対象者約200人のうち、50人ぐらいが参加する。
- ・ 終了後、参加者には町会長のあいさつ文と一緒に個々人を写したフォトブックを配布していて、これが好評を得ている。フォトブックは、町会にボランティア協力してくれる人が作成をしている。
- ・ 高齢者クラブは「東寿会」と称し、年に3～4回のお茶会を実施し、12月はミニ忘年会としてアルコールと仕出し弁当で一杯やっている。年会費は1,000円。

- ・ ピアノやギターが弾けて、作詞作曲もする人の伴奏に合わせてみんなで合唱したり、「ちいぱっぱ」というお話しクラブを主宰する人などの協力を得て、演劇を楽しんだりしている。
- ・ バス旅行も実施していて、R6年度は20人が参加し好評だったが、R7年度はバス代が高騰し、催行人数に至らず、やむなく中止せざるを得なかった。今後は再検討予定。

成果・今後の展望等

- ・ 敬老会も高齢者クラブも、町会内の人材を生かすことで、参加を促進し、事業を活性化することができている。
- ・ 高齢化が進行し、役員のなり手が見つかりづらいという課題はあるが、町会として人が集まりやすい「場づくり」を進められている。



高齢者クラブのバス旅行

【ポイント】

- ▼ 様々な特技を持つ町会内の人材を活用し、事業を活性化